

合格体験記 (一部頂いた体験記を省略しています)

この度、1度目の受験で、合格することができ、今回の合格体験記を書かせて頂く機会を頂きました。講座説明会で山下先生と直接お話する機会に恵まれ、先生を信じ1週間ほどで、日曜の山下クラスに申し込みしました。私の行った勉強方法が必ずしも、全ての方々に当てはまるとは限りませんが、初学者の方、勉強方法に迷っている方に少しでも参考として頂ければと思います。私の場合、本試験まで10ヶ月しかなかったため、まずゴールから逆算し、いつまでに何をやらなければならないかを明確にすることが重要でした。

■4月の答練が始まる前までに、科目別の過去問(5年分)を3回まわす(LEC市販)

★勉強時間：

11月から勉強を開始し、10ヶ月で約800時間を達成しました。

平日は、仕事をしていたので、残業がない日は、夜19時～23時まで3-4時間自習室で勉強しました。残業が続いたり、仕事で問題があったりすると、どうしても雑念が入ってしまい、途中寝てしまったりしたので、本当に集中できたのは、2時間程度だと思っています。

今考えると、どれだけ長時間机に向かっているだけでも、集中できなければ、内容は頭に入ってきません。どれだけ雑念なく、集中した時間を確保できるかのほうが大切だと感じます。

山下先生も何度もお話されていますが、予め何をするかを決めてから勉強を始め、集中力が落ちたときにする作業と集中時にできる勉強を自分の中で決めておくのも良いかもしれません。

多くの方が、仕事をしながら勉強していて、時間確保に苦労されていると思います。しかし、「仕事よりも勉強を優先させよう」という気持ちになると、勉強時間が確保できなくなればなるほど、焦りが出てきて、仕事もおろそかになり、悪循環に陥ります。

気持ちの持ち方の問題ですが、「就業時間中は仕事に集中し、1分でも早く仕事を終わらせよう、効率的に仕事をしよう」という気持ちで、最大限自分が確保できる時間の中でやりくりしていった方が、結果的に、集中力は高まった気がします。

仕事をしながら勉強する事は、最初は非常にデメリットだと思っていました。しかし、仕事をしているからこそ、金銭的な面にも余裕を持ちながら、時間管理の面でも工夫する力をつけることが出来ました。受験中、人との付き合いは制限しなくてはならないと思います。しかし、応援してくれる友人や理解してくれる家族に対しては、感謝の気持ちを持ちながら、与えられた時間の中で時間確保してゆくことが、人としての成長につながるのだと思いました。

★苦手科目の克服：

私の苦手科目は、多くの方同様に「労働一般常識」でした。

こちらは勉強方法が非常に難しかったです。法改正、白書対策講座、は他の受験生も必ずマークしている分野なので、LECで配布された問題は、直前期に集中して取り組みました。

★直前の勉強時間：

直前期7月頃になると、択一に関しては、基本的な問題、過去5年の問題は迷わずに解答できる力がついてきていました。その為、直前期は、模試の復習、模擬テストで問題慣れし、解答スピードを上げる訓練の意味で、〔択一式〕勉強を1日1～2時間程度とし、〔選択式〕をメインに行いました。選択式は、知らない問題が出題された時、いかに日本語の文章のつながりで考えて解答できるか、が勝負だと言われます。しかし、出題範囲が広く、知っているか、知らないか、で大きく差が出る科目でもあると思います。基礎的な所は、選択肢を見なくても解答できるように力をつけることが重要だったと思います。

★123、100の法則、道場、ファイナル、お盆特訓について：

<100の法則>3回は回しました。しかし、100の法則は、解答力をつける、というより、どういった枝が答えとなっているのか【傾向】を知るために重要であったと思います。

私の主観ですが、初学者の場合、本試験で対応するために、100の法則だけ丸暗記しても足りないように思います。傾向をつかんだ上で、過去問5年分=>余裕がある方は10年分を解いて、解答力・スピード力をつける方が、本試験では役に立つと思います。

<道場>

① 道場で配布された「答え問題集」を1～2回まわす。

② 「ダミー問題集」：「誤り枝」だけを解くことです。（正問はすべて無視）

誤り枝だけを解く時も、ダミー問題を繰り返す時間がなかったため、直接マーカーペンで〔間違っている箇所〕にマークしていきました。これは、選択対策にもつながりますし、お勧めします。全てのダミー問題をやるよりも、時間ははるかに少なくてすみます。

★モチベーションの維持について：

最後にこの受験勉強の中で最も重要なモチベーション維持について、書きたいと思います。まず、今年受験される皆さんにもう一度自分自身に「なぜ、社労士の試験に合格したいのか」自分を見直す時間を持って欲しいと思います。合格後に自分がこの資格を活用してどうしたいのかが明確でなければ、結局この資格を取った後に、生かせないまま、ただの資格で終わってしまいます。しかし、本当の意味で将来自分がどうしたいのかを考えることによって、何年かかったとしても、「10年後に社労士として活躍している自分」のためのステップとして本試験を捉えることができると思います。もちろん短期で、試験合格することが一番ですが、長い目で考えたとき、1年で合格して、資格の持ち腐れとなるよりは、3年かかって合格して、10年後に社労士として活躍している方がはるかに意味があると、今だからこそ思います。

私の場合、「転職したい」が最初の受験の動機でした。山下先生のお話を通じて、社労士という仕事の魅力について、知ることができました。私にとって、転職のための「資格取得」は、「将来を通じて人の役に立てる職業」という目標に変わりました。今は、少しでも実務経験を積んで一つの分野で専門家となれるために努力していきたいと思っています。